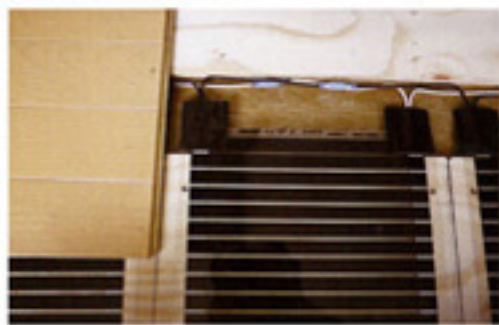


仕上材別施工方法

(1) フローリング



カボナとフローリングの長手が垂直になるように敷設します。

- 釘(手打ち)と接着剤併用施工を行います。
- カボナ上下面には接着剤をつけないで下さい。

(2) クッションフロア、コルクタイル、石板



カボナ上にベニヤ9mm~12mmをビス止めし、その上から耐熱用接着剤で貼ります。

- ① カボナの無い根太上に地墨をつけます。
- ② 結線部分を拾い印(斜線)をつけます。
- ③ 結線部分以外の根太上地墨部分をビスで止めます。
- ④ 上貼りベニヤ上に耐熱用接着剤で、各仕上材を施工します。

(3) 畳



カボナ上にベニヤ3mm~5.5mmをビス止めし、その上に床暖房専用畳を置きます。

- ① カボナの無い根太上に地墨をつけます。
- ② 結線部分を拾い印(斜線)をつけます。
- ③ 結線部分以外の根太上地墨部分をビスで止めます。
- ④ 床暖房専用畳を置きます。

カボナ

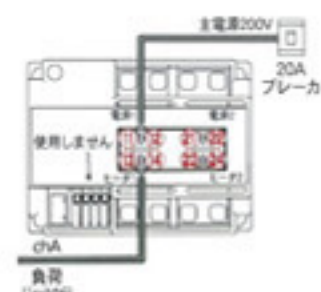
遠赤外線床暖房

早わかり 施工マニュアル

コントローラの取付

■電気系統図

●1回路用結線 (15A以内)



負荷が15A以内の場合、①②③④のみ使用します。

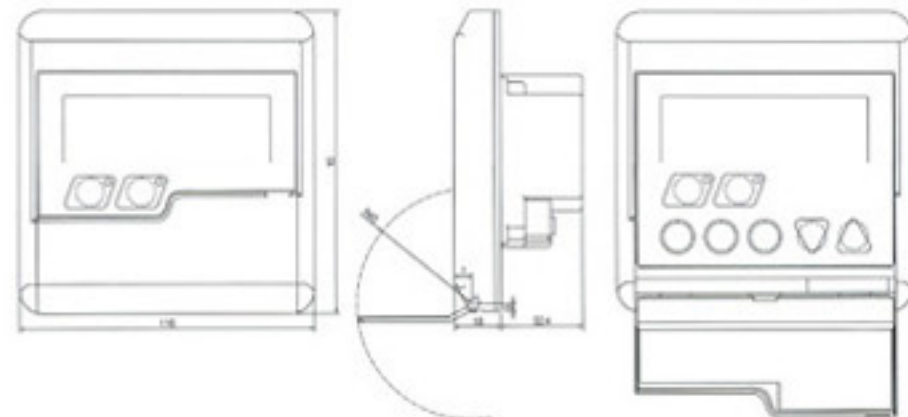
●2回路用結線 (15A以内×2)



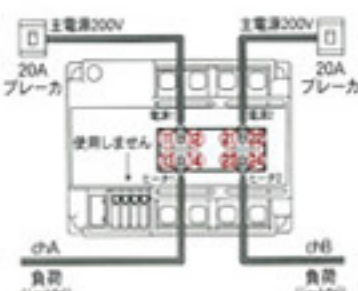
①②③に負荷15A以内を、④⑤に負荷15A以内を接続します。(ヒータ1、ヒータ2は独立運転です。)

■コントローラ外形寸法図

●1回路・2回路用結線外形寸法図



●1回路用結線 (15A以内×2)



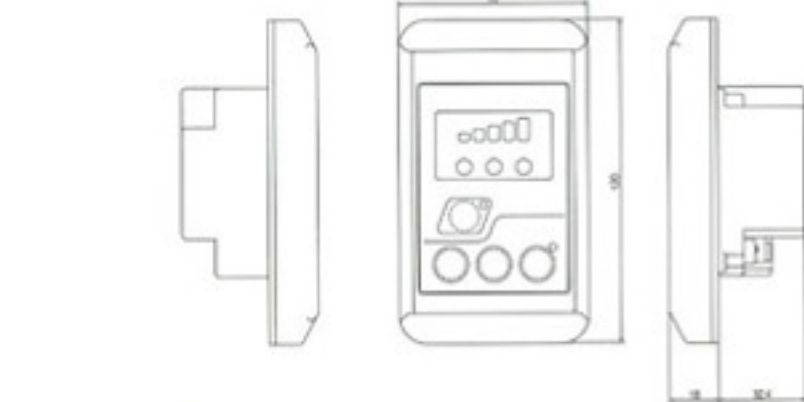
①②③に負荷15A以内を、④⑤に負荷15A以内を接続します。(ヒータ1、ヒータ2は同時運転です。)

●小口用結線 (6A以内)



負荷が6A以内の場合使用します。

●小口用結線外形寸法図

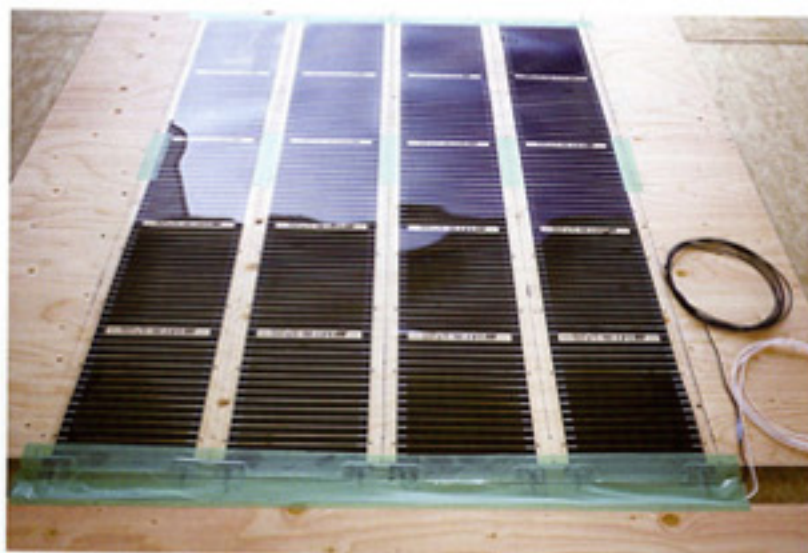


- コントローラは1回路用・2回路用共に200V専用タイプです。
- 負荷は突入電流で設計し、ヒータ1、ヒータ2共に15A (3.0kW/200V) 以内でつないで下さい。
- コントローラボックスは付属しておりません。
- コントローラに配線を差し込む際は、配線に端子を接続してコントローラに差し込んで下さい。

⚠ 試運転 ⚠

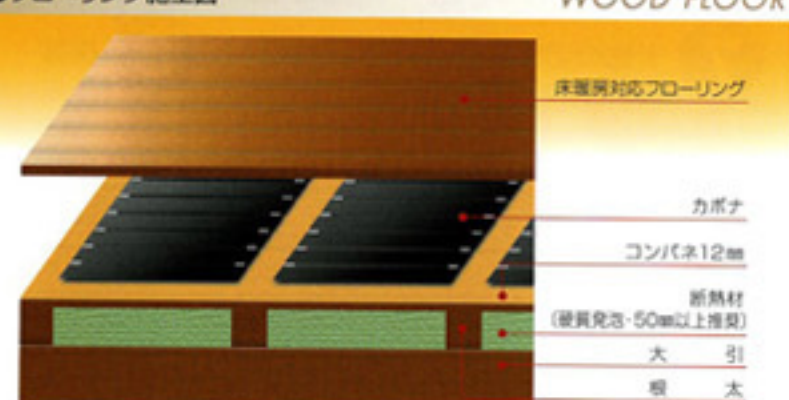
お施主様へ引き渡す前に電源を入れ試運転を行って下さい。
※カボナは200V用です。カボナに100Vの電圧をかけても動作しますが、温まりが極端に弱まります。

■施工概略図

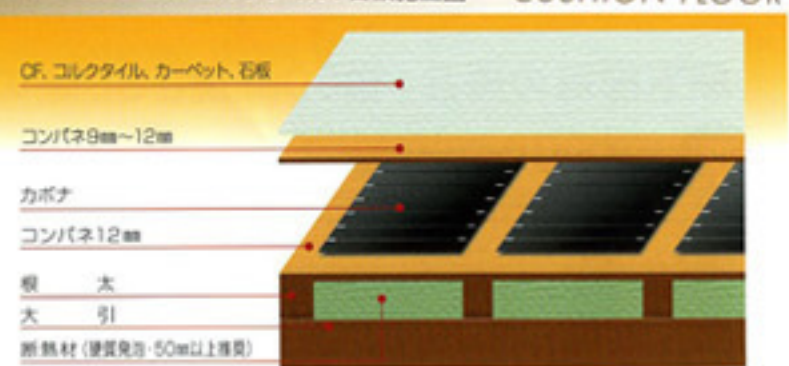


■仕上材別 施工図

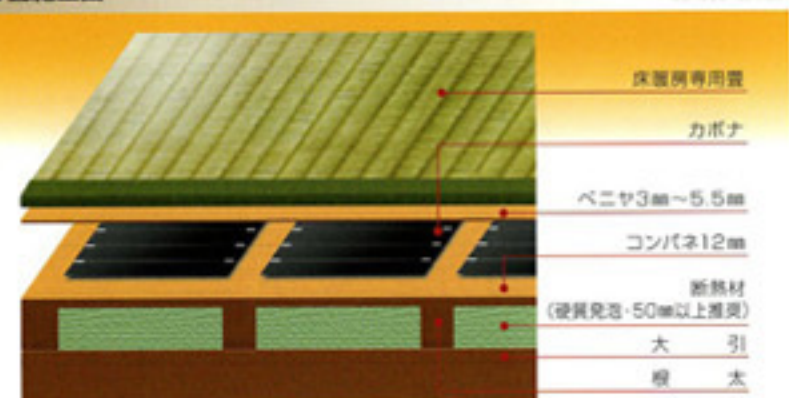
●フローリング施工図



●クッションフロア、コルクタイル、石板施工図



●畳施工図



■結線図



施工上 特に注意 すること

- 下地は平滑にし、釘や節などの凸部を取り除いてください。
- 木クズなどがカボナ本体の下や上に入らないように、掃除してください。
- カボナ本体にハンマーなどを落とさないでください。(土足厳禁)
- カボナ本体には一切釘・タッカーを打たないで下さい。
- 間違ってもカボナ本体に釘打ちした場合は製品を交換してください。

伊藤建材株式会社

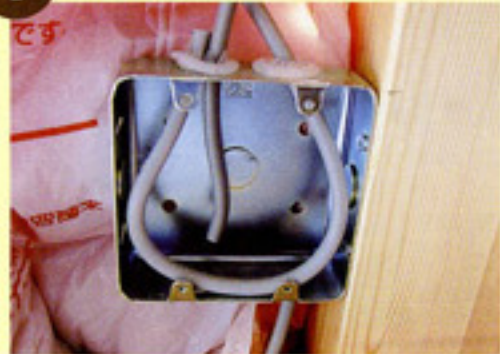
本社/工場 福岡県福岡市東区多々良1丁目7-19 TEL: (092) 682-1811 FAX: (092) 661-5771 URL: http://www.cabona.jp
東京営業所 東京都板橋区上板橋1-19-11 TEL: (03) 3932-5246 FAX: (03) 3932-5247 E-Mail: info@ito-kenzai.co.jp

※本誌掲載の施工方法はあくまで参考です。実際の施工は必ずしもこの通りとは限りません。

CABONA

施工手順

1 一次配線とコントローラボックスの取付け



コントローラ取付け位置(床から1200mm程度)を決め、壁にJISスイッチボックス深型(現場調達)を取付け、一次側電源コードを引き込みます。

2 下地の調整(釘の頭)



下地は乾燥剤を使い、釘の頭や針金が出ていないかを確認し、あればハンマーなどで平滑にします。

3 下地の調整(段差や節)



構造用合板(コンクリートパネル)の継ぎ目の段差や節を取る為、カンナなどで平滑にします。

4 下地の調整(段差や節)



構造用合板(コンクリートパネル)の継ぎ目の段差や節を取る為、サンダーなどで平滑にします。

5 仕上げ材(フローリング)の墨出し



フローリング貼り出し位置を出し、フローリングの継ぎ目が⑥のような位置となるようにします。

6 下地切断位置の確認



⑤のフローリング貼り出し位置から⑥の下地切断位置を確認し、継ぎ目が重ならないようにします。

床上配線の場合:幅80mm~100mmの溝

7 下地の切断



⑩のカボナシート上部の配線経路を幅80mm~100mmで丸ノコを使い切断します。

8 掃除



⑦を切断し出したホコリなどを掃除機で吸い取ります。

9 コネクタの接続



最初にコントローラからの追線(付属品)と、コントローラに一番近い1枚目のカボナの結線を、同色どうし(白と白、黒と黒)で行います。

10 カボナシートの仮止め(上部)



⑦の配線経路を全て養生テープで止めます。

絶縁処理



コネクタの接続部分と、最後のカボナのつないでいないコネクタを絶縁テープで絶縁処理します。(最後のカボナの配線は白黒1本ずつ余ります。)

完了



カボナシートの横部分を1mおきに10cm程度の養生テープで止めます。

床下配線の場合:幅60mm長さ80mmの穴

7 下地の切り取り及び穴あけ



カボナシートからのリード線を床下に落とす為、幅60mm長さ80mmで下地のコバネを切り取ります。投下の為の穴(9mm~)をあけます。

8 掃除



⑦下地を切り取って出たホコリなどを掃除機で吸い取ります。

9 リード線の投下



配線を床下に投下します。

10 カボナシートの仮止め(上部)



⑦であけた穴を含めて養生テープで止めます。

11 コネクタの接続



最初にコントローラからの追線(付属品)と、コントローラに一番近い1枚目のカボナの結線を、同色どうし(白と白、黒と黒)で行います。

5m配線タイプ (別注)

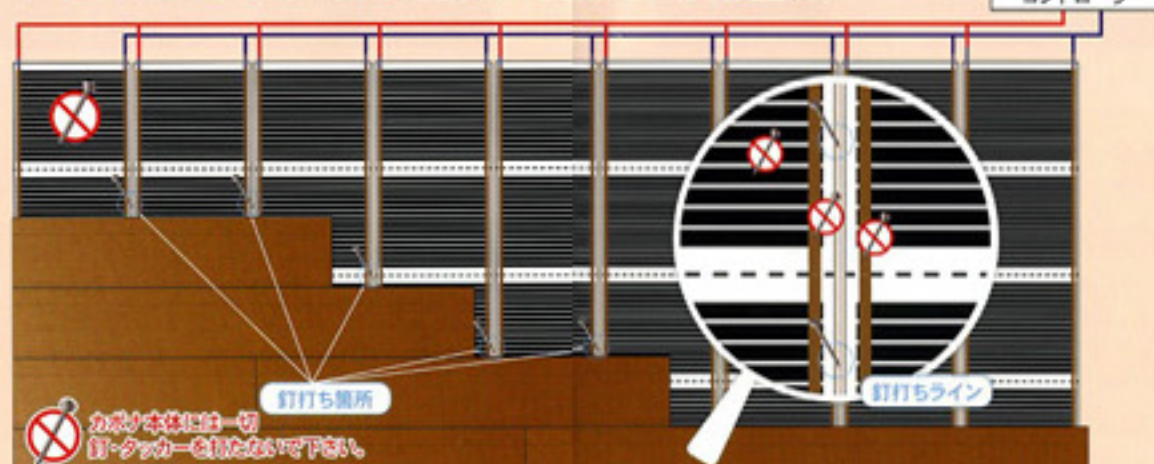


コネクタ無しタイプもご用意しています。

施工前、施工中の注意事項

- ※ 施工前にフィルムが傷がつくのを防止する為に、不陸をなくし、異物がないよう清掃してください。
- ※ 施工面に水気・湿気があれば完全乾燥後施工してください。
- ※ フィルム下に施工する下地は表面が粗いものを使用しないでください。
- ※ 施工前に下地から釘の頭などが出ていないか確認してください。
- ※ カボナ本体には一切釘・タッカーを打たないで下さい。
- ※ シートを折り曲げたり、破いたりしないでください。
- ※ リード線を強く引っ張らないでください。
- ※ 施工中にフィルムに物を落としたり、土足で踏むなどをして、傷をつけないように注意してください。
- ※ 仕上げ前にフィルム上でその他の作業(天井等のパテ、クロス貼りなど)をしないでください。
- ※ 仕上げ材は必ず床暖房対応の物を使用してください。
- ※ フィルム施工に関しては、建築設計者・工事現場管理者などと綿密に協議をし、電気容量や湿気対策などを十分に施した上で施工してください。
- ※ 万が一、本書と異なる施工を行った場合の事故は、一切の責任を負えませんのでご注意ください。

303mmカボナ標準記録・釘打ち可能箇所



重要 電気試験 カボナシート敷設後と仕上げ材敷設後に必ず行ってください。

合成抵抗値検査



○テスターと同様されている検査表を参照し合成抵抗値を確認します。
※50MΩ以上で合格しますが、コンパネが埋まっている場合や配線ミス、50MΩ以下になる場合がありますので、湿気も考慮の上測定してください。

絶縁抵抗検査



○絶縁抵抗計(DC500V)で測定チェックを行います。
※50MΩ以上で合格しますが、コンパネが埋まっている場合や配線ミス、50MΩ以下になる場合がありますので、湿気も考慮の上測定してください。